

「情報社会の倫理と民主主義の精神」

鈴木 謙介

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター研究員

1

0 報告に当たって

- 「倫理」とは何か
 - 我々の内的な駆動原理として
- 倫理 = 道德？
 - 「個人の規範」の水準での議論
「新しい現象を古い規範で律する」立場
- 民主主義のあり方の根本理念として

2

1 情報社会における価値

- 情報社会 = 「モノの流通」 < 「情報の流通」
 - モノの価値から情報の価値へ
 - 価値の創出 情報の流通を司る者が握る

3

1 情報社会における価値

- 価値創出に関わる権限委譲
 - 国際テロ組織の情報戦
 - 個人のエンパワーメント 国家に対抗する力
- 社会的理念の揺らぎ
 - 著作権 送り手の希少性をあてにできなくなる
 - プライバシー 「情報の発信」に関わる概念に
- 政治のあり方の変容
 - 「下からの政治」が生み出す光と影

4

2 情報社会の政治

- ネットにおける集合行動的現象
 - イラク人質問題への批判
 - 拉致被害者家族批判
 1. ネットとマスメディアの共犯関係
 2. タブロイド的娯楽メディアとしてのネット
 3. 集合的な力（サイバー・カスケード）
 - 「右傾化」ではなく「ポピュリズム」？

5

2 情報社会の政治

- 創発的に生まれてくる秩序
 - 集合行動 システムの創発特性
 - 社会的ネットワークを通じて生まれる新たな関係
 - 「スマートモブズ」、中越地震とネット etc...
- 創発主義における個人
 - 個人が必ずしも全体を把握しなくてよい
 - アリの生態のアナロジー
 - 自由な振る舞いの条件整備こそが重要

6

2 情報社会の政治

- インターネットはこのままでいいのか？
 - ネットから新たな力が生まれようとしている
 - これは衆愚政治とはいえないのか？
- 保守主義的な見方
 - 人々の政治的無関心や公共性の喪失が問題
 - 自分の利害関心だけに目を向けてはいけない
- 保守主義的ジレンマ
 - 民主主義の価値の擁護を民主的に決定できない

7

3 情報社会の経済

- 著作権を巡る問題
 - 情報社会
 - 情報の流通をコントロールすることが富の源泉
 - デジタル化
 - 誰もが情報の流通の主体になれる
 - インディーズアーティスト、Winny etc...
 - より強力な保護と啓蒙活動を！
 - 実際は「著作権財産権」の強化？

8

3 情報社会の経済

- ネットから生まれる新たな創作活動
 - 「所有権」は果たして絶対か？
 - すべてのものが「誰かのもの」なのか？
- 「所有」ではなく「共有」から生まれるもの
 - オープンソースコミュニティの成果
 - 「クリエイティブ・コモンズ」などの運動
- それは一体誰のものなのか？
 - ネットワーク化=所有の個人への紐付けを曖昧に

9

3 情報社会の経済

- 価値の共有から生まれるコミュニティ
 - 「Wikipedia」のような「共有される知識」
 - 「人力検索エンジンはてな」とコミュニティ化
- 自発的活動によって生まれるコミュニティ
 - 地域通貨、エコマネーといった文脈で評価
 - 地域再生の一つのあり方としての情報化
- 限定的な文脈
 - あくまである範囲で通用する「価値の共有」
 - 別種の排除を生み出す危険も？

10

4 情報社会と社会思想史

- 自由主義から自由至上主義へ
 - アダム・スミスの自由主義
 - 自由放任 神の見えざる手による自動調整
 - ただし、私利私欲の抑制力としての「道徳」の存在
- 自由至上主義の思想
 - 人々は自分の利害に従って自由に行動すべき！
 - 結果として道徳も福祉もそれで達成される
 - 「秩序は創発する」
 - 素朴な形の新たなアダム・スミス主義？

11

4 情報社会と社会思想史

- 中間集団が支える社会：共同体主義
 - P・J・ブルードンの思想
 - 「所有とは盗みである」
人のもを盗らないと何も生み出せない資本主義
 - 人々の相互信頼に基づく中間集団を社会の基礎に
 - 「交換銀行」のシステム
 - 「交換券」による信頼のネットワークの形成
 - 地域通貨的なものの端緒
 - 「共有」のために流通の流動性を下げる

12

4 情報社会と社会思想史

- 20世紀という時代
 - 「社会（民主）主義」の時代
 - 私的所有の矛盾 経済的發展によって無効化
 - 社会主義的動機付け 政府の保障によって解消
 - 国家が政治と経済を統合する思想
 - 源流としての保守主義、福祉国家
 - 市民社会を通じて人はみな国家へと包摂される

13

4 情報社会と社会思想史

- 新しい時代へ
 - 福祉国家の行き詰まり
 - 種々の矛盾が顔を出してくる
 - 18世紀的自由主義の再来として 新自由主義
 - 小さな政府 + 家族による保障（伝統主義）
 - 価値創出の権限は集権的権力にある場合
 - 「自由が福祉か」、「小さな政府か大きな政府か」
 - 権力委譲によって新たな手段を手にした人々

14

4 情報社会と社会思想史

	道徳の源泉	経済	政治
保守主義	国家による公共心の涵養	国家レベルでは保護	大きな政府の福祉政策
共同体主義	共同体による私利私欲の抑制	個別の地域で価値を共有	共同体の連合体
自由至上主義	経済的自由が道徳を生み出す	市場における自由な振る舞い	できる限り小さな政府

表1 思想的な立場の比較

15

4 情報社会と社会思想史

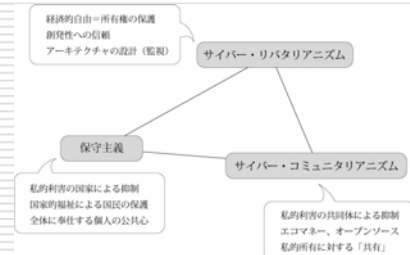


図1 情報社会の思想的配置

16

5 いま必要なモラトリアム

- 情報社会化によるエンパワーメント
 - 強い技術を手にすることがイデオロギイ的闘争に対する勝利への道
 - 一体その技術の選択はどのような社会を選んだことになるのか？
- 技術論に対する時間的猶予
 - 発展の速度の速い技術に対し人間の判断を待つ時間的モラトリアムが必要

17

「情報社会の倫理と民主主義の精神」

鈴木 謙介
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター研究員

18